

平成27年度事業報告

[はじめに]

平成27年度定例目標は、事業規模を2億円規模へと全国のWACポイントの拡大であり、重点取組みとして「疑似体験研修事業の拡大」「コミュニティカフェ事業の拡大」「会員拡大」そしてそのための人員体制強化を新役員体制のもと取組みました。

取組みの結果、「疑似体験事業」「研修事業」においては予算達成また「第三者評価事業」においては新たなる取組みにより売上大幅拡大しましたが、「コミュニティカフェ事業拡大」、「会員拡大」取組みができず、定例目標である事業規模2億円までわずか届かず未達成に終わりました。

公益事業においては、千葉県福祉ふれあいプラザの千葉県指定管理事業は、指定管理第3期の2年目として認知症予防取組みを具現化する年としての取組みを実施し、年間利用者数が初の20万人越えを果たしました。また、港区アクティブシニア就業支援センター「みなと＊しごと55」は、東京都のアクティブシニアセンターの中でトップクラスの就職者数を誇り引き続き存在感を示しています。コミュニティカフェについては独立法人「福祉医療機構(WAM)」申請は不採択となり、平成27度は自主事業として東京で「コミュニティカフェ講座」を開催、千葉市では「コミュニティカフェ基礎講座」を開催し、3月にはコミュニティカフェ全国交流会を行い約160名参加し盛況に終わりました。

収益事業においては、収益事業の柱である高齢者・認知症疑似体験事業において、既存顧客への丁寧な対応また新規顧客開拓に向け取組を実施し、「高齢者疑似体験プログラム」の大口セット販売に繋がりまた新規顧客を獲得でき売上増、収支改善に大幅貢献しました。もうひとつの収益事業の柱である受託研修事業は、初任者研修のほかに介護保険改正による「新しい総合事業」の従事者養成研修を新たに受注し予算達成に貢献しました。しかしながら、販売事業の基盤再構築はまだまだであり引き続き取り組んで参ります。

その他には、9月オーストラリア高齢者福祉施設視察旅行を実施、11月は滋賀において「在宅介護IN滋賀」を開催、3月には東京にて「WACフォーラム」を開催いたしました。しかしながら、会員の減少は歯止めがかかりません。本協会の運営基盤と存在に関わる問題であり、回復が喫緊の課題です。今後はあらゆる活動を通じて会員の継続と獲得に努めていくとともにWACの組織のあり方等検討し魅力あるWACづくりを目指していきます。

会員の動向等に関して

① 会員

《個人会員》

平成 28 年 3 月末時点での個人会員は 1,590 名で、内訳は（正会員 146 名、賛助会員 1,119 名、配偶者会員 325 名）です。

会費納入した会員数内訳：

個人正会員 102 名（男 53 名、女 49 名）

個人賛助会員 577 名（男 243 名、女 334 名）

《法人会員》

平成 28 年 3 月末での法人正会員 1 団体、法人賛助会員 19 団体です。また、団体賛助会員は 9 団体です。

法 人	正会員	(株)服部メディカル研究所
	賛助会員	MS&AD基礎研究所 株式会社、株式会社 P I L A R P R E S S、 ティ・シー・アイ ジャパン 株式会社、久光製薬(株)、一般社団法人 日本 青少年育成協会、一般財団法人 高齢者住宅財団、あいおいニッセイ同 和損害保険(株)、一般社団法人 日本健康麻将協会、一般社団法人コミュ ニティネットワーク協会、NPO 法人東京山の手まごころサービス、日立 コンシューマ・マーケティング(株)流通研修所、一般社団法人 日本産業 カウンセラー協会、NPO 法人ウェアラブル環境情報ネット推進機構、学 校法人篠原学園 篠原保育医療情報専門学校、NPO 法人 SSS ネットワーク、 エーザイ(株)、YKK AP 株式会社、特定非営利活動法人 金沢観光創造 会議、名古屋大谷高等学校
団 体	賛助会員	NPO 法人日本心身機能活性療法指導士会、東友会 関東支部、(一財) 全国勤労者福祉・共済振興協会、Liss システム本部、公益財団法人 さわやか福祉財団、特定非営利活動法人 楽生、特定非営利活動法人 J O F リンク、(公社)新潟県介護福祉士会、NPO 法人ナイチンゲー ル

事業に関して

【公益事業報告】

〔公1事業〕

≪高齢者福祉増進・啓発事業≫

○高齢者の福祉・健康・いきがづくり等支援事業 (千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理)

千葉県立施設の指定管理者として法令を順守し、承認された事業計画に基づき、NPO 法人 ACOBA との共同事業体で運営しました。

27 年度は第三期指定管理(平成 26 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)の二年目でした。26 年度、第三期の指定管理運営の発展に向けて基礎作りを行いました。26 年度末に主要な職員の退職が相次ぎ、27 年度は新体制での基礎作りがメインとなりました。且つ、千葉県高齢者保健福祉計画(平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)の初年度で、同計画にふれプラに対する新たな要望(認知症予防に関する事業の強化、福祉機器展及び介護実習センターの利用者増)が加わり、要望に応えるべく事業展開を図りました。

結果、新体制のもと、認知症に関する新たな事業(認知症カフェ、オレンジ教室)開始に結びつき、年度総利用者数が初の 20 万人越えを果たしました。総合事業における市町村支援、親子で福祉機器展、認知症関連の上映会、県内の認知症カフェに介護予防講習を出張で行うなど、ふれプラの独自色発揮・連携強化につながっています。

一方、利用料収入はホール文化利用の減少が響き 26 年度実績を下回りましたが、ほぼ昨年度並みで抑えることができました。文化利用は一年前の予約のため収入予測が立てやすく、これに合わせて支出を慎重に行ったため、収支は 26 年度(838,318 円)を上回り、3,087,424 円(WAC75%で 2,315,568 円)となりました。

27 年度は県監査委員会による本監査(平成 28 年 2 月 10 日)も行われ、「指摘・指導事項なし」の良い評価を頂戴しました。

	27 年度実績	27 年度計画・予算	26 年度実績
総利用者数(人)	205,028	190,000	188,805
利用料収入(円)	25,659,440	24,000,000	25,695,530

*27 年度計画の数値が 26 年度実績を下回ったのは、計画作成時より実績が予測以上に上回ったため。

○福祉サービスの質の向上事業

(第三者評価事業)

収入予算 10,000 千円に対して、実績は、18,698 千円です。

評価件数は、48 件でした。

契約先の内訳は、品川区 10 件、台東区 20 件、目黒区 4 件、民間 14 件です。

提供サービスの内訳は、グループホーム 14 件、特別養護老人ホーム・ショートステイ 12

件、デイサービス 7 件、居宅介護支援・訪問介護 9 件、小規模多機能型居宅介護 4 件、利用者調査 2 件です。

収支は、経費として人件費等を含め、±ゼロの目標を達成しました。

今年度は、この他に、東京都港区のいきいきプラザ（高齢者向け福祉・文化施設）16 か所の第三者評価を受託し、実施しました。

○長寿社会の啓発事業

（「ふれあいねっと（会員向け情報誌）」の発行）

6 月 20 日に 268 号を発行し、2014 年度の WAM 助成事業（3 都市のコミュニティカフェ開設講座、コミュニティカフェ全国交流会）、前年度の受講生が開いたカフェ、千葉県福祉ふれあいプラザなど首都圏と京都の認知症カフェについて特集しました。

8 月 20 日に 269 号を発行し、定時総会の模様や新役員紹介、全国の WAC ポイント・48 拠点の活動一覧を掲載しました。

年間 2 回発行しました。

（単位＝千円）

支出	
予算	実績
5,000 千円	1,504 千円

〔公 2 事業〕

◀高齢者の雇用・就労支援事業▶

（「みなと＊しごと 55」港区アクティブシニア就業支援センター）

平成 27 年度は、求職者減少・求人増加の傾向が顕著でした。求職者数 1,989 人（前年 2,525 人、比 78.8%）。ここ 2 年減少傾向が進んでいます。昨今の有効求人倍率の好転（労働市場全体の求人増）と、企業の雇用延長、再雇用の浸透が影響していると思われます。

労働市場と同様に、みなと＊しごと 55 でも求人は大幅に増加しました。求人数 1,570 件／求人人数 3,297 人（前年 1,401 件／2,825 人、比 112.1%／116.7%）。

求職者への情報提供を強化しました。月に 3～4 回メールマガジン（求人情報・イベント情報等）を配信。求人に対する問い合わせが 70 件を超え、就業に繋がった例も多くなりました。ホームページの求人情報も積極的に公開し、未登録求職者からの問い合わせが増えました。ポスティングは 2 回実施（前年 3 回）、47 名の新規求職者、35 社の新規事業所の開拓となりました。また「再就職支援セミナー」「合同就職面接会」を、例年通り 4 回開催し、求職者の就職活動スキルを上げ、面接の機会を増やすことに注力しました。

結果、前年比は減となりましたが、265 人の方々の就職を支援することが出来ました。

（前年 297 人、比 89.2%）。就職率（就職者数／新規求職者数）は 29.4%となりました。

〔公3事業〕

〈地域の相互扶助機能活性化事業〉

（コミュニティカフェ）

2015年度は自主事業として、東京で2期、コミュニティカフェ開設講座を開きました。講座の内容は、コミュニティカフェ概論、つくり方の座学、起業プラン作成、ワークショップなどで、全5回のうち3回はカフェの現場で講義し、実践例を見学・体験できる形式をとりました。16.5時間のカリキュラム以外に、課外にも事務局が2カ所のカフェを案内。受講料は前年までの助成金事業として3,000円から10,000円に上げたが、合計31人が受講し、東京圏外の長野・奈良・長崎から通った受講生もいました。

その中から計6人が、3月に東京で開かれた全国交流会に出席し、約160人の参加者の前で開設プランを発表しました。グループ討論では18テーマに分かれ、コミュニティカフェの運営や課題について語り合い、それぞれ交流を深めていました。

このほか、千葉市で全5回の「コミュニティカフェ基礎講座」を開き、23人が受講。千葉市の後援も得て、「認知症カフェ&ケアラズカフェ事例発表・交流会」を開き、82人が参加しました。

また、WACポイントの認定NPO法人「たすけあいの会 ふれあいネットまつど」が行った「生活支援サービスボランティア養成研修会（サロン・居場所コース）」をコーディネートしました。

東京都板橋区で開かれた「コミュニティスペースフォーラム」を2回、後援しました。

〈27年度コミュニティカフェ事業収支〉（単位＝千円）

収入		支出		収支残	
予算	実績	予算	実績	予算	実績
11,500	1,124	13,000	3,967	- 1,500	- 2,843

* 収益事業報告

〔収1事業〕

〈高齢者福祉関係人材育成事業〉

・介護職員初任者研修（通信）

八王子市から(株)パソナが受託した介護雇用プログラム（3ヶ月間介護事業所で働きながら資格を取り修了後は正社員として介護事業所に就職）において、初任者研修をWACが行いました。パソナ八王子校3コース、WAC沖縄1コースの計4コース実施し、修了者は合計51名でした。

・ **東京しごと財団から委託の研修実施**

福祉・家事援助サービス「生活支援サービス研修事業」（シルバー人材センター会員向け）研修を4回行いました。

・ **港区介護事業者職員向け研修実施**

港区内介護職員向け研修を5コース各4回実施しました。平成27年6月～平成28年2月で合計546名が参加しました。

・ **神奈川県の小規模多機能型居宅介護に関するセミナー実施**

㈱パソナからの受託で、「地域で求められる介護セミナー」（講師 服部万里子氏）を介護関連職の方々を対象として神奈川県内8ヶ所で行い合計215名が参加しました。

・ **江東区からの委託の研修実施**

江東区介護予防・生活支援総合事業に係る江東区独自研修の訪問・通所サービスの従事者養成研修事業を、江東区文化会館にて2日間2コース行いました。受講者は合計77名でした。

<27年度受託研修収支>

(単位=千円)

収入		支出		収支残	
予算	実績	予算	実績	予算	実績
16,000	17,737	11,000	15,079	5,000	2,658

〔収2事業〕

≪高齢者・認知症疑似体験事業≫

・ **高齢者疑似体験**

高齢者疑似体験の研修事業については、企業の予算削減等の影響もあり依然厳しい状況ですが、密な連携と丁寧なフォローによって既顧客の定着化を図りました。また、マスコミからの取材効果で新規顧客を獲得することができました。販売では、大口のセット販売が成約に至り昨年度より大幅なセット販売増となりました。更に、毎年実施している1月～3月のキャンペーンで販売実績を伸ばすことができました。

うらしまインストラクター養成研修は、6月5日6日（受講者16名）、9月17日18日（受講者13名）、12月7日8日（受講者10名）、3月7日8日（受講者16名）、出張研修で7月30日（対馬市社会福祉協議会、受講者21名）、社内限定インストラクター研修で7月17日（エルメッドエーザイ、受講者16名）の計6回行い、82名が受講しました。

・ **認知症疑似体験**

4月に大阪のバリアフリー展に出展し、体験者数は3日間で300名強でした。福岡県社会福祉協議会、PGA生命にて認知症疑似体験インストラクター研修を開催しました。また、フランスベッド（枚方、長野、愛知）、神奈川県立衛生看護学校（看護学生対象、95名参加）、愛川町社会福祉協議会（65歳以上の住民対象、15名参加）、大正園（認知症の家族会対象）にて認知症疑似体験研修を行いました。

<27年度高齢者・認知症疑似体験収支>

収入		支出		収支残	
予算	実績	予算	実績	予算	実績
27,000	27,124	18,500	13,895	8,500	13,229

〔収3事業〕

《介護予防事業》

（品川委託事業）

・ **健康マージャン**

高齢者の仲間づくり、生きがいつくりの場として自治体との協働でのマージャン教室を設置し、これを年間通じ、さらに年度を越え継続して運営することにより、高齢者の継続的社会参加を実現し、介護予防に寄与しています。

・ **男の手料理教室、わくわくクッキング、食事処**

高齢者の介護予防事業として、品川区からの委託をうけて開催しました。

男の手料理教室は、平成18年度から開講、年間延べ参加人数72名の参加です。

地域活動連携型介護予防事業（わくわくクッキング）は、平成24年度から開講、年間延べ参加人数558名です。

外出習慣化事業（大井食事処）の3コースは、年間通じて開催しました。平成25年度から開講、年間延べ187名です。

西大井いきいきセンターのレストランは8月にオープンし、月1回計6回開催しました。

<27年度健康マージャン、料理教室>

（単位＝千円）

収入		支出		収支残	
予算	実績	予算	実績	予算	実績
7,100	7,847	7,000	8,259	100	- 412

・“脳をいきいき”パイ（牌）ゲーム

品川区の新たな介護予防事業導入に向けて、平成 26 年 11 月よりテストマーケティングのため教室を開催しています。28 年度の介護予防事業には採用されませんでした。品川区の後援を頂き、また 4 月以降も区の施設の使用許可を頂いたためモデル教室を継続してノウハウの蓄積に努めます。